人工呼吸器療法は、多職種の連携による総合力が成果を上げる決め手です（目標５ｂ）

(社)日本臨床工学技士会　常務理事　佐藤景二

医療機器を扱うスタッフは、使用手順と実際の動きを知ったうえで操作しなければ、即座に使用中の患者を危険にさらしてしまうことになります。取扱説明書や添付文書に記載された正しい方法を理解したうえで操作することが必要です。また、医療機器は、ある一定期間繰り返して使用するため、適切な保守管理によってその性能を維持することも必要です。行動目標５では、これらのことを踏まえ、医療機器を安全に使用するために必要な使用前・使用中・使用後の各業務プロセスにおける安全対策実施事項をあげています（ハウツーガイド(1)を参照してください）。目標5bでは、「人工呼吸器が関わる有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ」ために下記3項目に加えチャレンジにVAPの予防を掲げています。

人工呼吸器は、医師・看護師・臨床工学技士など多職種の関わる機器であるため、すべての職種が理解し遂行できることを基本としています。

【推奨対策】

１．人工呼吸器の保守点検の確実な実施

２．人工呼吸器動作確認チェック表の作成と運用

３．生体情報モニタを必ず装着する

医療安全全国共同行動事務局のまとめた最新の各行動目標の安全対策進捗状況では、上記１．２．においては、すでに90%以上の病院が病院全体、一部部署の実施を含めると95%以上、３．の生体情報モニタの装着は、病院全体で70%、一部部署を含めると95%以上の病院が取り組みを済まされています。これは共同行動2年間の目に視えるうれしい成果です。しかし、人間は必ずミスを犯します。どんなに緻密な対策､立派なチェック表を使っても漫然と記録や結果だけを残すための仕事にしてしまうと、思わぬトラブルを引き起こしかねません。人工呼吸器の安全管理は、関わる職種間の情報共有と連携によって、よりその質が高まります。人工呼吸器の安全管理を通じた職種間の連携によって日常的に業務改善を行う気風を培い、医療の質向上を継続しましょう。

(1) ハウツーガイド　→　「９つの行動目標と推奨する対策」→「支援ツール一覧／各行動目標／ハウツーガイド」→登録のうえ、お入りください。